

乗雲

寺報

第108号

1985年4月創刊

R2.2.1 発行

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560

編集人
広厳寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

道元禪師御一代記押絵

8

北条時頼の懇願と鎌倉布教



道元さまは宝治元年八月から半年間、鎌倉執権北条時頼の懇願により鎌倉に下り禅を広める。時頼は何とか道元さまを鎌倉に引きとめて教えを請いたいと願ったが、道元さまは政治と権力の中での日暮らしを嫌い永平寺にもどられた。

道元禪師御一代記



「心」は誰にも見えない けれど 「心遣い」見えない 「思い」は誰にも見えない けれど 「思いやり」は見えない 行いによってやさしい思いも あたたかい心も はじめて見える あたたかい心が あたたかい行為になり やさしい思いがやさしい行為になるとき 「心」も「思い」も初めて美しく生きる それは人が人として生きることだ 宮澤章二

この詩は2011年に未曾有の大被害をもたらした東日本大震災、企業がコーポラルを自粛する中、幾度となくテレビで流れていました。当時打ちひしがれた人々の心を癒やし、多くの人の心に響きました。これは埼玉の詩人、宮澤章二さんの「行為の意味」という詩集にありました。この時初めて知り、その文章に心を動かされたものでした。「心遣い」「思いやり」という行為が大切なことなんだ。「心」や「思い」では人に伝

わらない、しかし、それを実行に移すことによって、「心遣い」になり、「思いやり」になる。

曹洞宗の根本聖典である「修証義」には「四摂法ししょうぼう」という仏教者が行う四つの徳目（布施・愛語・利行・同事）があります。そのなか第三番目に「利行りぎょう」を説かれていま

す。これは人のために、人に喜びを与えるために何かをすることです。ただし、その時には相手からの感謝や自分への見返りを求めず損得勘定なしで、ただ一心に行わなければなりません。「報謝をもとめず、ただひとへに利行にもよほさるるなり」とし、そして「利行は一法なり、あまねく自他を利するなり」この自分の良心からの他を利する行為（利行）が自分にも喜びを与え、心の平穏を得ることになる。心にとどめていられるだけ、思っているだけでは何もならない。行動に移すことで「利行」が完成する。

どんなささいなことでも、少しずつでもいい。「心遣い」「思いやり」のある日常を心がけましょう。それが「人が人として美しく生きること」です。

令和二年 年回表

〔回忌〕 〔没年〕

一周忌	平成三十一年・令和元年
三回忌	平成三十年
七回忌	平成二十六年
十三回忌	平成二十年
十七回忌	平成十六年
二十三回忌	平成十年
二十七回忌	平成六年
三十三回忌	昭和六十三年
五十回忌	昭和四十六年
百回忌	大正十年

▼令和二年(2020)の年回表です。

当寺では個人情報保護の観点から本堂には張り出ししていません。正當各家には昨年十一月中旬に通知していただきますのでご確認ください。▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせください。▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌、丸十二年目が十三回忌となる。